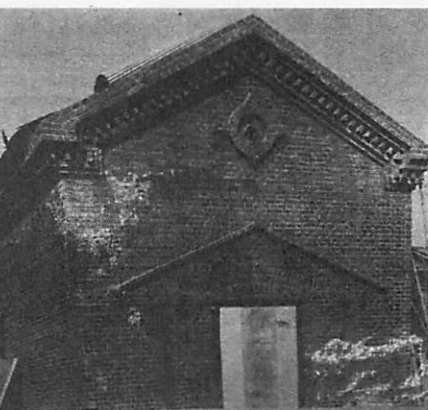




旭川の歴史と日銀

海道支店(現函館支店)ですが、当初はその派出所という位置づけです。そして、日露戦争終結の翌年に、旧北海道銀行(後に北海道拓殖銀行に合併)に業務を引き継ぎ、いったん旭川拠点の幕を閉じました。



え、師団の備品調達にあたっては、国庫金から資金の払い出しを行います。その事務が格段に増加しました。

③地域行政との関係
北海道の支庁は、明治初期に5つ設置されていますが、日銀旭川派出所が開設された明治30年には、上川支庁を含む19支庁が設置されるなど行政の整備も進みました。日銀旭川派出所では支庁の金庫事務も担当するようになり、こうした地域行政の整備・推進にお金を通じて経済の発展に貢献するということになります。

して仕事をしてきたと感じます。時は流れ、現代では人口・経済など時代環境は大きく変わり、地域の課題も当時とは異なります。そのように変遷する中でも、私どもが仕事をすすめる上での共通点を一つあげるとすれば、それは当地の人々が安心してお金を使えるようにすることを通じて経済の発展に貢献するということになります。

私どもの事務所は、人に例えると今年で79歳を迎えます。終戦の翌年、昭和21年(1946年)8月に、わが国最北の拠点として開設されました。そして、さらに時代をさかのぼると、実は明治の頃にも旭川に拠点を構えていたことがありました。開設されたのは明治30年(1897年)。旭川、神居、永山の3村がおかれた明治23年(90年)の7年後にあたります。調べると、当時、旭川の人口はまだ3600人程度。道内で初の日銀の拠点は北

①産業・金融との関係
旭川市編さんの各種資料によれば、開村初期に、屯田兵村の建設工事が行われる過程で移住者も増え、商業ではそれまでのよろず屋から次第に専門

自分たちの先輩にあたる「日銀旭川派出所」が、初期の段階の旭川とどのような関わりを持っていたのか、現役職員としてたの気になります。限られた資料を頼りに調べると、3つのことがわかりました。

②旧第七師団との関係
旭川は軍都として発展したとも言われますが、それは日銀の業務面にも表れています。旧第七師団は明治33年(1900年)に旭川移駐を開始し、翌年に移駐を完了しますが、日本銀行沿革史によれば、こうした中で日銀旭川派出所の事務量は増加したそうです。例

融通や借入金利の低下が進んだという記述もみられます。

旭川は軍都として発展したとも言われますが、それは日銀の業務面にも表れています。旧第七師団は明治33年(1900年)に旭川移駐を開始し、翌年に移駐を完了しますが、日本銀行沿革史によれば、こうした中で日銀旭川派出所の事務量は増加したそうです。例

旭川は軍都として発展したとも言われますが、それは日銀の業務面にも表れています。旧第七師団は明治33年(1900年)に旭川移駐を開始し、翌年に移駐を完了しますが、日本銀行沿革史によれば、こうした中で日銀旭川派出所の事務量は増加したそうです。例

【足立祐一(あだち ゆういち)】一九七三年、大分県出身。九州大学経済学部卒。金融市場局企画役、国際局企画役、ドイツ・フランクフルト事務所長、調査統計局地域経済調査課長を経て、二〇一三年、旭川事務所長に就任。

